

平成30年度「学校運営協議会の設置・拡充に向けた調査研究事業」まとめ【概要版】

教育委員会名	和歌山県教育委員会
研究課題	コミュニティ・スクールの仕組みを活用した中高一貫校としての地域貢献
研究のねらい	<p>中高一貫校（併設型）として知・徳・体の調和のとれた「生きる力」を身につけ、ふるさとに誇りと愛着をもち、人とつながりながら地域の課題解決に挑戦し続ける人を育てることを研究のねらいとした。前期（中学校）では、地域を知るインプットの期間として、学校教育課程ではできない学びの場をコミュニティ・スクールで提供し、「地域の方々から学び、地域を知る」ことに重点を置き、地域の課題の存在を生徒自身の身近な問題として感じさせる。後期（高等学校）では、地域貢献活動を行うアウトプットの期間とし、学校運営協議会との協働により、地域に根ざしたボランティア活動の充実と、地域の課題解決に向けた活動の実践を進めるとともに、地域における高校生の役割を社会に発信するための表現力の育成を図る。6年間を通して、ふるさとを愛する地域づくりの担い手としての役割を果たせる人材を育成する。</p>
研究の概要	<p>県立橋本高等学校・古佐田丘中学校の学校運営協議会を「中高一貫学校地域連携推進委員会」と名付け、年4回の会議を実施した。本校の目標である「地域の未来を拓く人材の育成」を達成するために、中高一貫学校地域連携推進委員会では、授業外でのボランティア活動の場を広げていく方向を探っていくことになった。具体的にはボランティアセンターの立ち上げや、中学生が地域を知る活動の場や人材の提供、高校生が地域貢献活動を行う場や人材提供の拡大を図ることとなった。</p> <p>また、それぞれの活動が円滑に進むように、中高一貫学校地域連携推進委員会の下部に地域活動支援部会、学習支援部会、学校評価部会の3つの部会を立ち上げ、組織活動がより効率的になるように、それぞれに役割を分担した。そして、それぞれの部会であがった懸案を中高一貫学校地域連携推進委員会で検討を行い、具体的な取組や支援ができる体制づくりを行った。</p> <p><b>【学習支援部会】</b> 主に中学校で行う「ふるさとを学ぶ」活動及び高等学校で行う「地域から学ぶ」活動の支援を行った。学習支援部会の主な支援として、既存の学校の授業では学べないものを学ぶ機会をつくるため、地域学習、職場体験の場の提供や、授業に適切なゲストティーチャーやキャリア教育講師等の人材の提供等を行った。その他、中学校、高等学校の土曜講座の開講運営のための支援を行った。</p> <p><b>【地域活動支援部会】</b> 本校生徒の地域貢献活動の場の拡充及び支援を行うため、地域から要望のあるボランティア情報を高校生の生徒会が運営するボランティアセンターへの提供を行った。</p> <p><b>【学校評価部会】</b> 従来の学校評議委員会の機能を継続しながら学校運営全般についての意見をいただき、学校運営に反映させた。</p> <p>なお、それぞれの活動には、コミュニティ・スクール担当教員を柱としながら、教科担任、クラス担任及び部活動顧問が携わった。多くの教員が役割を担うことで、本事業を学校全体の取組と位置づけた。</p>

学校が今まで実施してきた教育活動を改めて見直すため、中高一貫学校地域連携推進委員会で協議を行うことができた。

各部会の成果として、学習支援部会では、高校で PTA 主催による土曜講座を開催したことで、新しい学びの機会が増え、学習意欲の向上が見られた。また、地域活動支援部会では、委員の働きかけでこれまでより地域の連携機関が増え、学校と地域がこれまで以上に密につながるようになるとともに、ボランティア活動や地域貢献活動の幅を広げることができた。

〈高校 2・3 年生を対象としたアンケート調査結果 一部抜粋〉

- ・「ボランティア活動をしたことがある」  
高校 2 年生 60%、高校 3 年生 53%
- ・「ボランティアのルール・意義について理解が深まったか」  
高校 2 年生 93%、高校 3 年生 97%
- ・「自分の考え方や人生観を確立する上で有意義だったか」  
高校 2 年生 90%、高校 3 年生 90%

その他、「つながりの大切さを感じた」「自ら行動することの重要性を学んだ」「地域の様子を知ることができた」等といった自由記述があった。

#### 研究の成果

アンケート調査結果から、生徒にとってボランティア活動の意義や地域の理解を深めるだけでなく、生徒の地域貢献に対する意識に確かな変容が見られ、ボランティア活動や地域貢献活動等を通じて、生徒の進路や生き方を考えていく上でも欠かすことのできない活動へとなってきていると考えられる。

中高一貫学校地域連携推進委員会でも今年度の活動の振り返りを行った。「前期と後期で主な活動を分けることでそれぞれのねらいが達成しやすく、効果的であった。」「部活動によっては、中学生が高校生と一緒にボランティア活動に参加している。中学生が高校生と一緒に活動することで、目標ができるとともに自主的に活動するようになった。」「ボランティア活動によって、生徒の自尊感情が育まれている。」「市の広報誌に本校の活動が掲載されたことで、多くの地域住民に知ってもらえるようになった。」「今年度は各外部事業所と連携することが多かったが、近隣の保育所、認定こども園、小学校、中学校との連携が少なかった。」等といった意見が出された。

今後、さらに取組を進めていくために、地域学校協働活動本部と連携を深めていく活動を増やすとともに、地域での活動を通して、生徒がどのように変容していくのか検証していきたい。

本件  
問い合わせ先

和歌山県教育庁学校教育課 県立学校教育課（073-441-3681）